



戦争を風化させない会

The Unforgotten Sacrifices of War

ニュースレター 2022.4.1

会友の皆様、お元気でいらっしゃいますか。

一昨年からのコロナ禍によって、世界も日本もグアムも未だ収束の道が見えず混乱しています。本会も当初の予定通り行事が催行できないまま2年近くも皆様にご無沙汰しています。申し訳ございません。

グアム鎮魂社の現状と各種情報を皆様にお伝えするため、ニュースレターをお送りいたします。グアムもコロナ禍の影響を受けていましたが、幸い鎮魂社の設置場所が政府敷地内ということから、定期的な芝刈りなどの管理が行き届いていて、会では神社の台座塗装、供花替えや、周りに建立されている卒塔婆の交換などをして参りました。今年度は鎮魂例祭の挙行、祠の扉補修、桒看板の取り替えを予定しています。

引き続きのご支援をお願いすると共に、会に対してのご意見・ご希望がございましたら芳賀までお寄せ下さい。

芳賀建介

◇ 2021年鎮魂例祭 開催報告 ◇

一昨年からの新型コロナウイルスによって日本との往来が停止し、政府の各種規制も厳しくて従来の様な例祭を開催できませんでした。そこで2021年12月8日、”個別に集まる慰霊会”と内容を変えてカソリック神父をお招きして「第九回グアム鎮魂例祭」を催行しました。

以下は昨年発足したグアム鎮魂社崇敬賛助会の会長ポール・清水氏のメッセージです。

『世界的なコロナ混乱期に、しかも規制の多い中で戦没者を慰霊する集まりをもてた事は意義深い事です。どのような災禍があろうとも戦没された兵士や地元犠牲者を忘れる事はありません。この世界の私たちは過去の痛みを思い出し、現在の平和に感謝し、そして後世にそれを橋渡しするのは義務があります。今年から、地元のボランティアが集まって、戦没者がいるグアム鎮魂社を恒久的に管理および維持することを目的として小さな支援グループを設立しました。これは、グアムと日本の民間



人による日米同盟の結束の証拠であり、両国民にも貢献するものです。忙しい年末に集まった皆様、そして儀式を催行して下さった神父様に心から感謝申し上げます』

質素な式典でしたが、心静かに英霊に哀悼と感謝、尊崇の真を捧げることが出来ました。参加者は知事代理アリス・タイエロン女史、マイク・カスタモス神父の他20余名でした。

【鎮魂例祭2022計画】

現在2022年度慰霊祭の式典を思案中ですが、状況が状況なので、どのような規模・形式になるのか全く予想ができません。政府によるコロナ規制を勘案しながら進めて参ります。随時、ホームページ等に状況を掲載いたしますので、そちらをご覧ください。

なお、3月末現在、日本・グアム共に航空便搭乗前72時間以内のPCR検査が義務付けられています。また最低2回のワクチン接種証明が必要です。グアムへの入国に際しては制限も隔離規制もありませんが、日本への帰国時に空港検疫に数時間かかる他、スマートフォンへの位置情報確認アプリ導入が義務付けられています。これは政府の要請と航空会社のポリシーによるものです。数ヶ月後には大幅に改善されると思われます。常夏のグアムで慰霊祭を皆様と共に開催できることを期待しています。

会では会友便りとしてフェイスブック「戦争を風化させない会」およびホームページ <http://www.fuka-sasenai.com/> にて逐一グアム便りを更新しています。ぜひご覧ください。

「戦争を風化させない会」と「グアム鎮魂社」

グアム観光で訪れた観光客の皆さんにこの島での日米戦争について話している間に、先人のご苦労と愛国心に胸を打たれ、勇敢に戦った人々の事を「忘れてはならない」「風化させてはいけない」と強く感じるようになりました。



たまたま縁があったグアム戦従軍兵士のご遺族・ご親族を誘って「戦争を風化させない会」を発起したのが11年前の初夏、先人の志を後世にきちんと継承し、伝承することが目的でした。

グアムで慰霊祭を始めて今年でちょうど10年目になります。2013年、最初の慰霊祭には当時自民党政調会長だった高市早苗さんが参加されました。高市さんはその翌年も平沼赳夫さんと来島されました。慰霊祭の主宰者を「戦争を風化させない会」としたのはその時からです。

当時、慰霊祭は島内各所の戦跡地で行っていましたが、都度米軍と政府の許可を得る必要がありました。定まった場所で慰霊祭を行いたいという参加者の要望を聞き、日本軍掃討のために米軍が上陸したアサン村の村長に神社建設地の相談をしていました。その後、様々な人々の世話になった結果、思いがけなく、アデラップ岬の知事公舎敷地の一部に神社を建てて良いという許可を戴きました。この経緯は長い話になりますので、別の機会にお話しします。

グアム鎮魂社は2017年に知事公舎の庭に創建されました。

慰霊祭は初回から靖国神社のご協力を戴き、鎮魂社が創建された後は靖国神社の例祭となりました。兵士たちは「靖国で会おう」と誓い合って戦いに臨んでいました。その靖国の神官によって戦没者慰霊の祭祀が行われるのは誠に感慨深く、意義深いものだと思います。靖国神社が海外で定期的に祭祀を行っているのはグアムだけのことです。

慰霊祭に参加する人も年々変わりました。最近では地元の日本人学校の教諭を含めたメンバーが中心となって会場を設営し、会友と協力し合って式典を催行しています。共通の目的だから打ち解けあい、言葉の不自由さを超えて大切な気持ちが通い合います。慰霊祭は単に先人への哀悼だけが目的ではなく、地元を含めた参加者の連帯と結束を感じさせるものです。

2021年には地元日系3世が結束して「グアム鎮魂社崇敬賛助会」を設立し、神社の維持管理をしています。日米共同で戦没者の慰霊をする態勢が整いました。

